

津田左右吉物語

第32回

左右吉をとりまく人々

岩波茂雄（岩波書店創業者）

左右吉と岩波茂雄氏との親交は、昭和6年北軽井沢に二人が山荘を建てたときにはじまり、岩波氏が亡くなるまで続きました。関東大震災以後、左右吉の主な出版物は岩波書店から出されました。

昭和15年には、左右吉の『神代史の研究』他3冊が「皇室の尊厳をぼうとくするもの」として二人は起訴され、5年余りの裁判の結果、有罪の判決を受けました（後に控訴審では時効により免訴）。判決ごとに提出された上申書（控え）が、今も岩波書店に大切に保存され、二人がいかに裁判に挑んだかを知る貴重な史料となっています。

岩波氏が大正二年東京神田に古本屋を開業したのが、今日の岩波書店のはじまりです。彼は独特の文化・教養主義的信念に基づき、広い分野にわたる学術・啓蒙書（けいもう）を次々に出版して、文化活動に貢献しました。昭和21年にはこれらの業績が認められ、文化勲章を受章しています。



▶ 軽井沢にて